

遮熱シートの販売体制強化

石 塚

専任の営業スタッフ拡充

「熱中症対策義務化」に対応

石塚（本社・東京都千代田区、社長・熊谷弘司氏）は、遮熱シート「サーモバリアフィット」の販売体制を強化している。今月から企業で熱中症の対策が義務化されるのを受け、専任の営業スタッフを拡充。売り上げが好調だった昨年に続いて問い合わせが増える中、迅速な供給に対応する。

同シートは、厚みが0・2ミと軽量で、ガラスクロス繊維に特殊樹脂シートを合わせ、両面にアルミ箔を施す造り。防護装備材料で熱伝達性（放射熱ばく露）を評価する試験では、防火服の基準に比べ約10倍の結果を得ており、210度×24時間の条件下でも外観に異常はなく、国土交通大臣の不燃認定を取得

溶鉱炉①や屋根など広い空間の作業環境を改善させる



している。

カーテンやカバー状など、現場に応じたさまざまな形状に縫製加工でき、乾燥炉や機械、屋根などからの熱を大幅にカットし、施設内の作業環境を改善させる。工場や倉庫、体育館など空間が広い施設

では、空調設備が十分に整っていないケースも少なくなく、シートで大型の機械を包み込むことで、炉から溶け出したり、機械から出たりする熱による暑さの解消につなげる。熱中症による労働災害が深刻化する中、厚

生労働省は、症状が出た人を早期に発見し、適切な対処を促す狙いで労働安全衛生法の省令を改正。今月から施行され、重症化を防ぐための応急処置や医療機関への搬送などの手順を事前に作成することなどを求めている。

石塚は1955年の設立で、合成樹脂製品の加工販売などを展開。サーモバリアフィットも熱中症対策の関連商品として注目が集まっており、今夏の期間で昨年比1・5倍の売り上げを計画している。

